

ミヤコカブリダニの放飼効果

福島県果樹試験場病理昆虫部
平成15～16年度試験研究成績書

1 部門名

果樹－リンゴ・ナシ－病害虫防除
分類コード 04-0103-23000000

2 担当者

荒川昭弘・阿部憲義

3 要 旨

複合交信攪乱剤を利用した殺虫剤削減防除体系下において、ハダニ類に対するミヤコカブリダニ(スパイカル)の効率的利用方法を検討した。

- (1) リンゴでは場内ほ場で放飼試験を実施した。6月24日に各樹約100頭のミヤコカブリダニ成虫を樹上に放飼した。その結果、初期密度の低い樹では、無放飼樹に比べて明らかにナミハダニおよびリンゴハダニの密度が低くなった。放飼時の初期密度が高かった樹では、葉に被害が認められたが放飼後のハダニ類の密度は低下し、防除効果が認められた。
- (2) ナシでは、現地ナシほ場で放飼試験を実施した。リンゴハダニが優占するほ場に6月25日に樹当たり500頭放飼した。しかし、放飼後のカブリダニの定着数が少なく、7月22日以降のリンゴハダニの急増に対応できなかったため、殺ダニ剤の散布を必要とした。
- (3) 以上のことから、リンゴではハダニの密度とカブリダニの放飼時期を十分考慮することにより利用が可能と思われた。ナシでは、放飼方法、放飼時期など長期間にわたって防除効果をあげるための手法の検討が必要と思われた。

4 その他の資料等

なし